関わり続ける定住のカタチによる結（ゆい）の故郷（くに）づくり

#集住環境のデザイン
#住民主体のまちづくりの実践
#ハードとソフトが連動する仕組みの構築

毎年横町通りで開催される盆踊り大会

DATA

- **主な連携先・メンバー**
  大野市／横町編集部／日吉町１区自治会／大野高等学校／上庄小学校／有終西小学校
- **活動地域**
  福井県大野市
- **活動期間**
  2017 年度～継続中
- **活動資金**
  大野市受託研究

目　的

福井県大野市横町スタジオは、研究・教育・まちづくりが三位一体となり、人口縮小時代において住民が集まって住むことの豊かさについて探求することを目的に活動している。

連携にいたる経緯

2017 年、建築環境デザイン研究室は、大野市にて地域拠点を開設するため空き家調査を実施。同年、空き家を借り上げて地域拠点「横町スタジオ」と命名し、開設のためリノベーションを実施。1 年間の現地での活動に基いて、2018 年には同市と本学は連携協定を締結した。

活動内容

大野市内に開設した横町スタジオを拠点に、①拠点づくり②関係人口創出③エリアマネジメントの３つの事業を実施している。実践にあたっては、地域のまちづくり団体であり横町スタジオのお手入れと運営を担う横町編集部と連携し、行政、学校、民間企業など多様な主体との協働を実現している。①に関しては、横町スタジオでの学生や住民の主体的な活動の活性化を目的に、サークル立ち上げ支援等の拠点を活かしたまちづくりを展開。加えて、毎年の盆踊り、毎月のバザーや通信の発行、毎朝のラジオ体操など、習慣的なまちのリズムをつくることで、多世代が関わりやすい拠点づくりをめざしている。②に関しては、大野に関わる人材のネットワークづくりを行うため、大野市外や大学内での活動のパネル展示や、卒業生との連携プロジェクトを実施している。③に関しては、地域の小学校や高校と連携して「都市からミミズまで」と名づけて都市を楽しむワークショップや広場等の公共空間の活用を実施している。

子どもたちと都市模型を作るワークショップ

毎月第３土曜日のバザー「持ち寄る日」

「横町ものづくり WS」まちの照明デザインを考える

活動の成果

- 地域のまちづくり団体と連携することで、地域に根付いた活動基盤が構築できたこと。
- 大野に関わった学生が卒業後も大野で活躍していること。
- 学生向けのフィールドワークプログラムの構築ができたこと。

今後の課題・目標・展開の可能性

- 横町スタジオにおける持続可能な生活を実践すること（パーマカルチャー分野）。
- 地元高校、小学校との連携の接点を高めること（教育学分野）。
- ふるさと納税等を活用し、活動の自主財源を確保すること（地域商社）。

連携先からの一言

大学がない大野市において、大学生が地域住民と協働・連携し活動を行うことは、地域の活性化や関係人口創出等の観点から意義深いものであると思います。引き続き、都市部の大学と地方の関係づくりに期待しています。

（大野市政策推進課　奥村氏）

環境都市工学部 教授　北詰　恵一 Kitazume Kei-ichi

専門は、土地利用・交通モデル開発、公共事業評価、地域再生等。産官学民連携による新しい政策技術の開発・実施を手掛け、地域再生や社会システムの構築をめざす。

先端科学技術推進機構 客員研究員　三浦　紋人 Miura Mondo

大野市地域おこし協力隊。1994 年福岡市生まれ。関西大学環境都市工学部建築学科卒業。同大学院修了。
2017 年より大野市と関西大学の連携事業にて横町スタジオの立ち上げに参画。横町編集部代表。